

歯 科 健 康 診 査

動 向

平成27度の歯科健康診査は18団体、受診者総数11,189名に対して実施した。団体数が1団体増加した。

方 法

健診内容は、基本検査項目として歯、歯周組織の検査、その他について実施した。総合評価は「異常なし」「要注意」「要予防処置」「要検査」「要治療」「治療中」「その他」に分類した。

歯の診査に関しては、う蝕の有無、処置（歯科治療）の有無、要治療歯の有無を診査し、歯周疾患の検査はCPI（Community Periodontal Index）を測定した。CPIは検査歯の歯周組織の状態をcode 0：正常、code 1：出血あり、code 2：歯石あり、code 3：4～5mmの歯周ポケット、code 4：6mm以上のポケットという重症度（治療必要度）を5段階で判定するものである。また、顎関節症や口腔粘膜疾患などについても診査を行った。

また今年度も啓蒙活動の一環として、口腔清掃状態の評価およびアドバイス（リーフレット配布）に加え、歯ブラシ（キャップ付き）および咀嚼訓練用のチューインガムの配布を行った。さらに昨年度から追加したブラッシングの状況の評価に加え、咀嚼力検査を実施した。歯磨き（ブラッシング）の状態については「良好」「ほぼ良い」「やや不良」「不良」の4段階で評価を行った。咀嚼力検査に関しては咀嚼力判定ガム（ロツテ製）を用いた。これは咀嚼による色素（赤、黄、青色の3種類）の溶出程度をカラーチャートで評価する方式である。評価は3マニュアルに則って0から5に分類した（5が最も噛めているという評価）。

結 果

受診者の概要は、団体数は前年比1団体、総受診者数は752名の増加であった。受診者の男女比率は3：1で男性が多く、これは例年と同様であった。

要治療歯については、う蝕、歯周疾患、欠損補綴（ほてつ）など治療を要すると思われたものが33.1%と前年度34.9%に比較して微減していた。治療が必要な歯数では要治療歯1本が15.7%（前年度16.3%）、同2本が7.7%（8.5%）、同3本が3.6%

（3.8%）、同4本が2.0%（2.3%）、同5本以上が4.1%（4.0%）であった。

全体として改善しているが要治療歯5本以上の者が微増している点は特定の者の受療行動への促しが必要と考えられた。

歯周疾患の進行度（治療を必要とする程度）を示すCPIの結果は、歯周組織が健康で受診の必要なし、と考えられたものが33.3%（前年度30.9%、前々年度29.1%）、CPI=1が21.9%（19.4%、21.4%）、CPI=2が42.6%（47.7%、46.0%）、CPI=3が2.0%（1.7%、3.1%）、CPI=4が0.1%（0.2%、0.3%）という結果であった。

対応としてはcode 1にはブラッシング指導、code 2以上は歯科受診が勧められる状態である。CPI code 2までの軽度の状態は治療および予防処置により健全な状態を回復する可能性があり、進行させないことが目標のひとつになる。code 3以上の歯周炎罹患群に対してはわかりつけ歯科への定期的かつ継続的な受診を勧めたい。

ブラッシング（プラークコントロール）の状況については良好が25.4%（前年度21.2%、前々年度23.0%）、ほぼ良い57.3%（57.8%、55.1%）と合わせて8割近い者が良い状況であった。反面、やや不良16.3%（19.7%、20.3%）、不良1.0%（1.3%、1.6%）という結果であった。咀嚼力に関しては0、0%（前年度0%）、1、0.2%（2.1%）、2、2.1%（16.5%）、3、14.9%（28.7%）、4、44.7%（42.4%）、5、35.5%（8.5%）であった。

「総合評価」としては、「異常なし」が18.0%（前年度17.1%、前々年度17.4%）、「要注意」が19.3%（15.1%、15.6%）、「要予防処置」が25.9%（29.2%、29.8%）、「要検査」が1.0%（1.0%、1.7%）、「要治療」が27.8%（30.0%、27.5%）、「治療中」が8.1%（7.7%、8.1%）という状況であった。

ま と め

各項目に微増、微減があり全体としては大きな変化は認められない状況であった。継続した管理の必要性が考えられた。

関係の集計表は121頁に掲載